

くんま二人展

和紙人形・伎楽面と布絵

大城忠治 & 竹山美江

2022
展示 令和4 1.7(金)~2.6(日)

くま水車の里 無料 10時~15時(水・木休み)
浜松市天竜区熊 1976-1 ☎ 053-929-0636

お二人の話 2.6(日) 12時~13時 (無料)

主催の池谷がインタビュー、人生と作品のことを語っていただく。

紙漉き体験 2.6(日) 13時半~15時 (1,500円)

10名限定 (要予約 ☎ 080-6442-9339 田中康彦)



冬の山里くんまでの展示会。阿多古和紙を継承している大城忠治さんの創作和紙人形、懐山のおくないの伎楽面など30点。布絵作家の竹山美江さんの作品、古民家と町並み中心としたもの30点。最終日の2月6日には、それぞれの暮らしぶり、作品づくりへの思いを語っていただきます。

紙漉きワークショップも開催します。大城さんの手ほどきで、紙を漉きます。漉いた紙は乾燥して、後ほど郵送。自分ならではの味わいのある紙は宝になることでしょう。冬の水仕事は冷たいですが、焚き火を囲んで温まりながら、気楽なおしゃべりの場ともなります。冬の山里くんまの散策も、またよし。



大城忠治 (創作和紙づくり：92歳) 阿多古地域の伝統産業であった手漉き和紙づくり。創作和紙人形、伎楽面などを作っている。村芝居の脚本を書いたりする。年をとるほどに人は神に近づくという、大城さんの笑顔は翁そのもの。なにがあってもすべて笑い飛ばしてしまう。いわばT A O (無為自然) の人。



竹山美江 (布絵作家：86歳) 60代で布絵を始めた。「もめん大好き」(いちりん堂発行)。作品は「浜松百撰」で一年間、連載。中区の神田町でひとり暮らし。二俣近くの西藤平にギャラリーがある。毎日、毎日、布絵やクロステッチなど作品作りを工夫し楽しんでいる。



会場：くま水車の里 道の駅、農産物の加工と販売、体験施設。食事処。ほとんど観光する場もない過疎の山里に、おkaaさんたちが力を合わせて、居心地のよい寄り合いの場が作った。運営して、もう33年。農林水産祭「村づくり部門」で天皇杯受賞(平成元年)する。一人ひとりに歴史と物語がある。浜松市天竜区熊 1976-1 (053-929-0636)

協力：阿多古和紙広場 楮の栽培から漉き上げまで一貫した和紙づくりを探求している。工房では楮、ミツマタを育て、傍を流れる沢の水で紙漉きを楽しむ。体験したい人、協力したい人はいつでもウェルカム。浜松市天竜区両島 1009-4 (080-6442-9339)



おくないの伎楽面



伐った木材を運ぶ



紙漉き 水に晒した繊維を拘う

大城忠治さんの作品 和紙人形と伎楽面

大城さんの漉いた和紙は、地元の小学校の卒業証書になった。校長が墨書して一人ひとりに手渡していた。
近況、「こないだイノシシとぶつかって崖からころがったけれど、まだ生きてるよ。あちこちまだ痛い。年には勝てんねー」というすこい92歳。



紙漉 楮の皮を剥く



遠州大念仏



木材を牛が運ぶ

川越の時の鐘

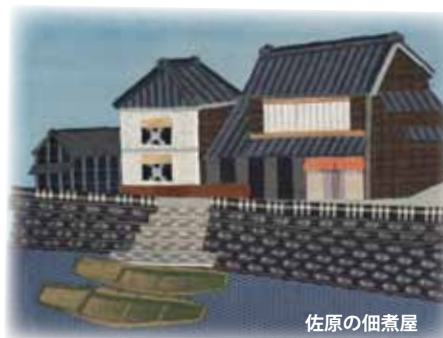


竹山美江さんの作品 古民家と町並みの布絵

布が好き。もめんが好き。布との出会いが楽しい。幼い頃、ぬり絵が大好きで色をつけては楽しんでいました。少女期には、中原淳一の「ひまわり」「それいゆ」を愛読していました。
布絵は50代になって、宮脇綾子さんの布絵に出会ったのがきっかけ。60代になって、布絵教室に通いました。
70代になって、年一回、テーマを覚えて天竜区の自宅で展示会を開いてきました。86歳になっても、毎日、創作をたのしんでいます。 竹山美



天浜線



佐原の佃煮屋